

教育に関する事務の管理及び執行状況  
に係る点検評価報告書  
(平成21年度事業)

平成22年8月  
酒田市教育委員会

# 目 次

1 点検・評価制度の概要	1
2 点検・評価の対象	1
3 学識経験者の知見の活用	1
○ 酒田市教育振興基本計画体系図	5
4 点検・評価の状況	6
I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ	
(1) 確かな学力の向上	
・ 学力向上対策の充実	6
・ 時代に対応した教育の推進 (国際理解教育、情報教育、科学・ものづくり教育)	7
・ 読書活動の推進	8
・ 特別な教育ニーズへの推進	9
(2) 豊かな心と健やかな体の育成	
・ 体験活動、交流活動の推進(学校教育課)	10
・ 体験活動、交流活動の推進(社会教育課)	11
・ 相談支援体制の充実	12
・ 食育の推進	13
(3) 家庭、学校、地域との連携	
・ 家庭教育の支援	14
・ 地域教育力の向上	15
(4) 教育環境の整備	
・ 学校施設の整備	16
・ 学校規模の適正化の推進	18
・ 通学の安全確保	19
・ 学校ICT環境の整備充実	20
・ 教育の機会均等	21
(5) 信頼される学校、開かれた学校づくりの推進	
・ 教職員研修等の充実	22
・ 学校運営の公開と学校評価システムの推進	23
・ 特色ある学校づくりの推進	24

## II 世代を超えてまなびあう

### (6)生涯学習の充実

・ 生涯学習社会の基礎づくり	25
・ 学習機会の提供	26
・ 地域活動の活性化	27
・ 学習団体及び社会教育関係団体への支援と連携	28

### (7)図書館活動の充実

・ 図書館機能の充実	29
・ 光丘文庫の保全と活用	30
・ 子どもの読書活動の推進(再掲)	31

## IV 歴史にはぐくまれた芸術・文化を活かす

### (10)歴史・文化遺産の保存と活用

・ 文化財等の保存及び活用	32
---------------	----

### <参考資料>

・ 小中学生の朝食状況	33
・ 地域の教育力向上事業実績	34
・ 生涯学習推進講座開催事業実績	35
・ 東北公益文科大学市民講座開催事業実績	36
・ 生涯学習施設「里仁館」講座実績	37

## 1 点検・評価制度の概要

この報告書は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「法」という。）」第27条第1項の規定により、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならないことに基づき、作成するものである。

これにより、効果的な教育行政の推進を図るとともに、住民への説明責任を果たすことを目的とする。

### 《参考》

地方教育行政の組織及び運営に関する法律

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

- 第27条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。
- 2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

## 2 点検・評価の対象

平成21年度の教育委員会の権限に属する事務のうち、平成22年度の組織改編により市長部局に移管された芸術文化及びスポーツに関する事務以外の事務の管理及び執行の状況を対象とする。

なお、平成22年4月策定の酒田市教育振興基本計画に記載されている施策のうち、教育委員会所管の施策、今後おおむね5年間で重点的に取り組む施策を中心に、25施策を選定した。

※酒田市教育振興基本計画体系図は、P.5のとおり。

## 3 学識経験者の知見の活用

点検・評価にあたっては、法第27条第2項の規定により、学識経験者の知見の活用を図ることとなっているが、学識経験者2名より、各分野に関して意見をいただいた。

### 【学識経験者】

市立第六中学校 元校長 名和 弘  
東北公益文科大学 准教授 和田明子

## 《点検・評価に関する意見》

### 全体を通して

- 1 22年4月に策定した「酒田市教育振興基本計画」に取り上げている重要な施策の中、25施策にしぼり評価を実施しているが、評価すべき施策としては妥当である。
- 2 25施策中8施策については数値目標が記載されているが、さらに数値化することが望ましい。

評価は目標達成に対する行為であるので、表記については評価が可能であるか否かの吟味が必要である。そのためには、目標達成の姿を具体的に絞込み表記することが必要である。
- 3 担当課として、事業を通してどのような姿（数値含む）にするのが望ましいのか、具体的な姿を明確にして目標設定することが大切である。明確な目標は、実施中の進捗状況をも明らかにできるものと思われる。
- 4 「点検結果・自己評価（課題・方向性）」については、課題と方向性は表記されているが、反省から次年度の事業への切り込み方法を明示できれば、事業は次年度当初からより円滑に進められるものと思われる。

また、担当課または関係課合同で反省等ができれば、施策の進捗状況の把握や課題の共通認識をさらに図ることができ、各事業を効果的に展開することができるものと思われる。
- 5 事業の施行は、目標管理という意識が重要である。適宜の進捗状況把握という意味を込めて、年度途中の中間評価が施策・事業の進行管理として必要と思われる。
- 6 「小学校図書貸出冊数（一人当たり月平均）」「地元産野菜利用割合」「図書館利用状況（貸出冊数・人数）」の増加、「不登校児童生徒の割合」の減少など、着実に目標を達成してきていることは高く評価される。
- 7 「放課後子どもプラン事業」「学校ICT環境整備事業」をはじめ文部科学省の補助事業を活用することはよいことであるが、（補助事業はいつまでも続くものではないため）事業開始当初から市としての長期展望を模索しなければならないという課題がある。「地域主権」時代の今、酒田市教育振興基本計画がまずあり、その実現のために文部科学省の補助事業を活用するというような、教育委員会の主体的な取組姿勢が今後ますます必要になってくるように感じた。
- 8 少子化が定着し、「社会全体で子どもを大切にする」という社会的合意ができつつある今、「子どものための予算を充実させる」という共通目標のもと、教育委員会は今後とも教育行政のさらなる充実に向けがんばってほしい。

## 点検・評価について

### I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ

- (1) 基本施策「1 確かな学力の向上」に取り上げられている施策はいずれも緊急性があるもの、長期的に解決を図るものと多岐にわたるが、いずれの事業も現状に対応して適切に施行していることがうかがえる。
- (2) 施策「学力向上対策の充実」は、学校教育の最重要課題である。学校訪問の際、向上すべき学力要素を明確にして指導助言にあたってほしい。タクティックス（作戦、戦術）を明示することによって学力向上策の焦点化が図られ、効果的な事業が展開できるものと思われる。
- (3) 施策「体験活動、交流活動の推進」のうち、「さかたっ子・チャレンジ冒険団」は、参加人数が減少しているので内容を再考する時期に来ているのではないか。例えば、各学校の生涯学習担当者を集めて説明会を開催する、あるいは親自身が関心を持つ内容に工夫するなど検討してはどうか。
- (4) 施策「相談支援体制の充実」について、不登校児童生徒の減少が見られることは、各事業が効果的に実施されている所以であると思われる。今後とも学校の状況を鋭く察知して事業の展開がなされることを望みたい。
- (5) 施策「教職員研修等の充実」について、各研修が教職員の各年代の課題を明確にして目標化すべきであり、また、どんな資質の向上に寄与しているのかを明確にして事業評価にあたるべきである。
- (6) 人格形成の大切な時期に「育む」ことを第一義とする幼児教育の施策について、その重要さに鑑み、進捗状況を知るべく評価をぜひ実施してほしい。

### II 世代を超えてまなびあう

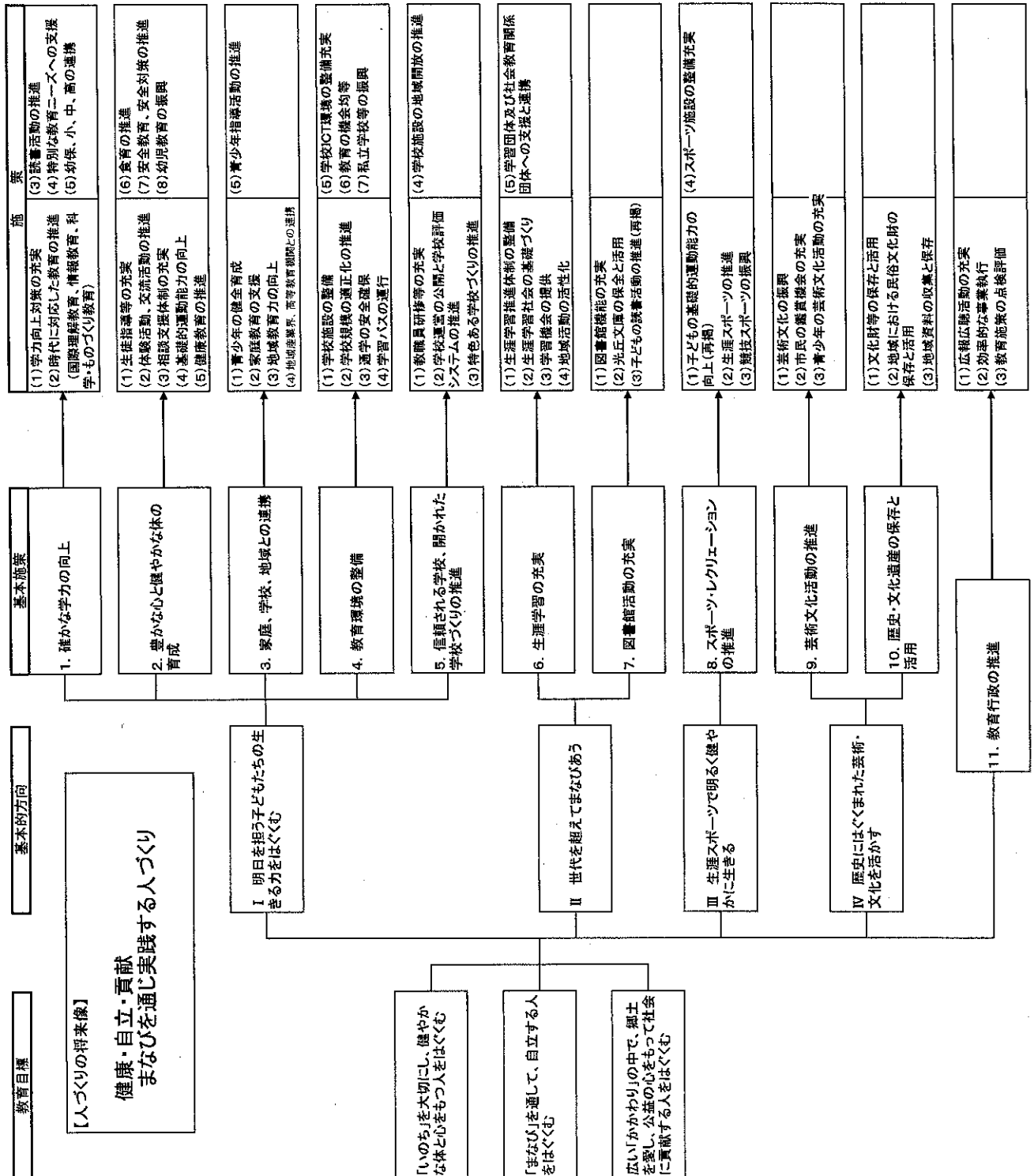
- (1) 各事業の実施終了時に事業評価を実施して見直しを図るなど、改善に向けて適切に取り組みと事業展開がなされている。参加者の固定化傾向が見られるが、文化センター利用団体へのPRなど情報提供の工夫等で改善を図ってほしい。  
また、里仁館の諸事業の援助は、設立当初の趣旨が保たれるよう関係機関にて検討が必要であると思われる。
- (2) 施策「学習団体及び社会教育団体への支援と連携」のうち「生涯学習振興支援事業」は、団体の「運営・活動」に補助するという趣旨なのであれば、コミュニティ団体への運営活動補助を担当している部署に事業を移管し、共通の補助基準で補助したほうが透明性が高まるのではないか。
- (3) 図書館運営については、市民の利用者が年々増えるとともに、利用形態へのサービスに多様化が見られるが、生涯学習の支援機関として体系的に良く整備されており、十分機能を果たしている。学習機会に比較的恵まれない本市において市民のニーズの質と量に十分対応すべく施設等の検討が必要と思われる。

(4) 数年来、青少年の読書離れが言われているが、「酒田市子ども読書活動推進計画（仮称）」の策定と推進に大きな期待を持ちたい。また、青年層の図書館の活用促進のためには、生涯学習体系における図書館の運営も考慮されたい。

### Ⅲ 歴史にはぐくまれた芸術・文化を活かす

(1) 文化財活用の事業を多様に展開していることは理解できたが、「さかた歴史街道事業」や「文化財保存活動支援事業」等の事業では、文化財の保護・継承を行う人材や団体数、市民参加型のソフト事業の取り組み、入館者の数値目標、実績等を明確にし、評価するようにしてほしい。

# 酒田市教育振興基本計画体系図





基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ
基本施策	1. 確かな学力の向上
施策	学力向上対策の充実
担当部署	学校教育課
事業の目的及び目標	<p>・学習指導要領に対応した授業等の改善、少人数指導等による指導法の改善を通し、小中9年間を見通したまなびを推進することで、「生きる力」を支える「確かな学力」の育成を目指す。</p>
H21年度 主な事業の概要及び実施状況	<p>○ 学校訪問指導</p> <p>・各小中学校で実施した41回の授業研究会に延べ161名の指導主事等を派遣し授業改善に向けた指導・助言を行った。</p> <p>○ 学力向上対策事業【予算額10,092千円】【決算額10,035千円】</p> <p>・小学校4年生から中学3年生までの全児童生徒を対象に、学力検査を実施した。また、その結果をもとに小中学校長会の検討会で調査分析し調査報告書を作成した。</p> <p>○ 教育研究所運営事業【予算額933千円】【決算額755千円】</p> <p>・各教科・領域毎の研究部で授業研究会や研修会を合計78回実施した。</p>
事業の効果	<p>・新型インフルエンザの流行により、中止となった授業研究会が多かったものの、各学校の要請に応じ、授業研究会に参加し、指導助言を行い、学校研究や授業改善に資することができた。</p> <p>・各担任、学校が個々の児童生徒やクラス、学校全体、そして市全体の学力状況(学習の到達状況)を把握できた。調査報告書や学力検査結果は、これまでの指導の検証と改善、上学年の結果を踏まえた指導方法の改善に活用されている。</p> <p>・各教科領域等の研究部で講演会や研修会を開催し、指導と評価にかかわる情報交換や現在の教科指導の動向などについて、共通理解を図ることができた。</p>
点検結果・自己評価(課題・方向性)	<p>・学力の諸要素に留意しながらも、子どもたちが将来生きていくための確かな学力の定着について、地区をあげて実質的な成果を目指す。</p> <p>・酒田の児童生徒の学力状況を把握することは、児童生徒の学習の到達状況や課題をとらえるために必要であるため、今後とも継続していく。また、学力検査の結果を受け、小学校と中学校の連携や算数・数学、英語の授業力向上にむけた活動を推進していく。</p> <p>・教育研究所では、国語、社会、算数・数学、理科、英語部会を重点部会として研修活動の充実を図る。</p>

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ
基本施策	1. 確かな学力の向上
施策	時代に対応した教育の推進(国際理解教育、情報教育、科学・ものづくり教育)
担当部署	学校教育課
事業の目的及び目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時代の進展と社会の変化に伴い、国際理解教育、情報教育、科学・ものづくり教育などを推進することにより、子どもたちに時代にふさわしい能力を身につけさせる。</li> </ul>
H21年度 主な事業の概要及び実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 中学生海外派遣事業「はばたき」【予算額 当初6,550千円】【決算額 0千円】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型インフルエンザ流行のため中止となった。</li> </ul> </li> <li>○ 外国人英語講師招致事業【予算額15,140千円】【決算額12,841千円】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・市内小中高に4名の英語講師を配置し、中高生の英会話指導、小学生の外国語や外国の生活文化の理解を図る指導にあたる。</li> </ul> </li> <li>○ 情報活用能力の育成 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校ICT環境整備事業において、電子黒板、デジタルテレビ、校務用PC等の環境整備を行った。</li> <li>・各学校の情報教育担当者会、市教研視聴覚部会で、ICTを活用した授業についての研修を実施した。</li> </ul> </li> <li>○ 理科センター推進事業【予算額1,427千円】【決算額1,176千円】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・理科教育に関する教員対象の研修会を4回開催した。児童生徒の理科研究発表会を実施した。(127作品(H20:116作品 H19:126作品 H18:137作品)が発表された)</li> </ul> </li> <li>○ 中村ものづくり事業【予算額2,128千円】【決算額2,128千円】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・おもしろ科学ものづくり塾(年8回開催、塾生42名)、ものづくり科学教室(5領域、147名参加)、ものづくり出前授業(延べ20校、550名の受講者)を実施した。</li> </ul> </li> </ul>
事業の効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーション中心の英語指導により、実践的な英語力の向上に役立っている。小学校の外国語活動では、児童に学ぶ楽しさを実感させることができています。</li> <li>・ICTを活用した教育の基盤整備を行い、ICTを活用した授業の実践例を共有することができた。</li> <li>・理科教育に関する研修会には述べ83名(H20:94名、H19:81名)の教員が参加し、研修を行った。実験器具の正しい使い方や実感を伴った理解につながるような学習指導法の工夫に関わる研修を深めることができた。</li> <li>・ものづくりを通して実生活に応用できる科学的な考え方の素地を養うことができた。</li> </ul>
点検結果・自己評価(課題・方向性)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際交流の中止となったことは、生徒の国際理解を進める上で残念な結果であり、平成22年度には再開する。</li> <li>・小学校での外国語活動が導入されたことにより、小学校へのALT派遣の要望に対応するように検討する。</li> <li>・ICTを活用できる教員の割合は低いレベルにあるため、平成21年度末の機器の整備をきっかけに、活用できる教員を増やすための研修や支援の充実を図る。</li> <li>・理科の授業で行う観察・実験のあり方についてより一層の研修を深める。</li> </ul>

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ																						
基本施策	1. 確かな学力の向上																						
施策	読書活動の推進																						
担当部署	学校教育課、図書館																						
事業の目的及び目標	<p>・読書活動を充実させるため、本との多様な出会いの工夫をすると共に、読書に親しめる環境の充実を目指す。</p> <table border="1" data-bbox="304 521 1197 669"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H26</th> <th>H31</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学校図書室貸出冊数</td> <td>小</td> <td>6.6冊</td> <td>7.0冊</td> <td>7.5冊</td> <td>8冊</td> </tr> <tr> <td>(1人当たり月平均)</td> <td>中</td> <td>0.6冊</td> <td>0.6冊</td> <td>1.5冊</td> <td>2冊</td> </tr> </tbody> </table>							H20	H21	H26	H31	学校図書室貸出冊数	小	6.6冊	7.0冊	7.5冊	8冊	(1人当たり月平均)	中	0.6冊	0.6冊	1.5冊	2冊
		H20	H21	H26	H31																		
学校図書室貸出冊数	小	6.6冊	7.0冊	7.5冊	8冊																		
(1人当たり月平均)	中	0.6冊	0.6冊	1.5冊	2冊																		
H21年度 主な事業の概要及び実施状況	<p>○ 各小中学校への図書専門員の配置 37名の図書専門員を全小中学校に週2～3日配置し、学校図書館の環境整備を行った。</p> <p>○ 図書購入費の各小中学校への配当 小学校15,679千円、中学校11,706千円の図書購入費を執行した。</p> <p>○ 「酒田市子ども読書活動推進計画(仮称)」作成に向けた打合せ会の開催</p>																						
事業の効果	<p>・図書専門員により各小中学校の図書の配置・貸出カード整理など、学校図書館環境の整備がすすんだ。</p> <p>・学校図書館の標準冊数充足率が100%を超えている学校数は小学校20校、中学校9校であり、市全体としては、小学校が109.1%、中学校が118.0%となっている。</p> <p>・朝読書、読み聞かせが行われ、読書に親しむ環境が充実してきている。</p> <p>・平成21年度の学校図書館の一人当たり月平均の貸出冊数は小学校7.0冊、中学校0.6冊であった。</p>																						
点検結果・自己評価(課題・方向性)	<p>・図書専門員の配置及び図書購入費の各小中学校への配当を継続して行い、標準冊数充足率が100%を超える学校の増加を目指し、学校図書館の環境充実を図る。</p> <p>・中学校での貸出冊数が増加しないことあり、中学校を含めた読書活動を推進するために、司書教諭、図書専門員等を対象とした研修会を計画する。</p> <p>・学校図書館の機能のうち、情報検索のための機能の充実をはかり、各教科や総合的な学習の時間での調べ学習により一層対応できるようにする。</p>																						

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ
基本施策	1. 確かな学力の向上
施策	特別な教育ニーズへの支援
担当部署	学校教育課、管理課
事業の目的及び目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ADHD(注意欠陥多動性障がい)・LD(学習障がい)等、個別の支援を必要とする児童生徒や日本語でのコミュニケーションが困難であったり、長期入院のため学習の遅れが心配される児童生徒に対して、個別のニーズに応じた支援を行う。</li> </ul>
H21年度 主な事業の概要及び実施状況	<p>○ 学習適応支援員の配置 【予算額38,009千円+緊急雇用10,257千円】【決算額38,009千円+緊急雇用9,233千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の支援を必要とする児童生徒が学校生活へよりよく適応するために、学級担任の補助を担当する学習適応支援員43名を小学校25校、中学校6校に名配置した(H20は28名配置)。1日6時間、年間200日勤務</li> </ul> <p>○ ADHD等支援体制推進事業【予算額2,753千円】【決算額2,653千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学校の特別支援コーディネーター(教員が担当)を主な対象とし、児童生徒個々の障がいに応じた具体的手立ての研修を2回実施した。</li> <li>・保護者研修会(ペアレントトレーニング)の開催(5回×2グループ)・特別支援巡回相談員による巡回指導の実施(28校 延べ219回)した。</li> </ul> <p>○ 日本語指導講師等派遣事業【予算額1,559千円】【決算額657千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語でのコミュニケーションが困難な児童生徒への日本語指導講師を3校の対象者へ57回派遣した。</li> <li>・長期入院児童生徒への学習アドバイザーを2校の対象者へ26回派遣した。</li> </ul>
事業の効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別な教育的支援を必要とする児童生徒への個別の対応が可能になり、また、その児童生徒の属する学級集団全体の活動もスムーズに行えるようになった。また、指導に生かす計画も作成することができた。</li> <li>・すべての学校で支援を必要とする児童生徒の実態把握が行われ、支援対象が明確になったことにより、特別支援コーディネーターを中心に計画的な支援が行われるようになっている。</li> <li>・児童生徒の実態に応じた内容の校内研修が行われた。また、巡回相談員、スクールカウンセラー、特別支援学校と連携した研修も主体的に行われている。</li> <li>・個に応じた日本語指導を行うことにより、児童生徒が学校生活に適應することに大いに役立っている。また、長期入院の児童生徒にとっても、退院後の学習の遅れに対する不安を軽減できた。</li> </ul>
点検結果・自己評価(課題・方向性)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教育に係る整備は着実に進んできてはいるが、酒田特別支援学校(仮称)との連携体制作りの具体化に向けて協議を進めていく必要がある。</li> <li>・特別支援教育対象幼児の早期発見と早期対応及び幼児期から中学生までを通した支援の連携を一層推進する。</li> <li>・学習適応支援補助員の配置要求は全ての学校から出され、対象とされる児童生徒は150名以上となっており、今後とも配置を進めていく。</li> <li>・今後も日本語指導を必要とする生徒が増加することが予想されるため、対応が必要とされる。</li> </ul>

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ			
基本施策	2. 豊かな心と健やかな体の育成			
施策	体験活動、交流活動の推進(1)			
担当部署	学校教育課			
事業の目的及び目標				
<p>・日本国内の異なった地域の文化に触れる機会を与えることで、自分の育った地域のよさの再認識を図るとともに自主性や協調性を養い、生きる力を育む。</p>				
		H20	H26	H31
交流活動参加児童の満足度	小	92%	95%以上	95%以上
	中	100%	100%	100%
H21年度 主な事業の概要及び実施状況				
<p>○ 少年の翼交流事業【予算額3,557千円(当初)】【決算額447千円】</p> <p>・新型インフルエンザの流行により、派遣を中止し、受け入れのみを行った。 受け入れ:2月10日(水)~13日(土) 今帰仁村小学6年生36名、交流担当校:松原小学校</p> <p>○ 飛島いきいき体験スクール支援事業【予算額3,470千円】【決算額3,022千円】</p> <p>・10小学校、児童612名参加(H20:12校602名、H19:13校619名)</p> <p>・飛島小学校を活動拠点とし、2泊3日の野外観察やイカ釣りなどの体験学習および21年度から再開した飛島小学校の児童との交流を実施した。</p>				
事業の効果				
<p>・沖縄への派遣は事前学習会の途中で中止となったが、交流を希望する団員は「交流カード」を沖縄に送付し、つながりを持てるようにした。</p> <p>・今年度は派遣を行っていないため、満足度の調査をしていない。</p> <p>・飛島いきいき体験スクールのみならず、各学校で行う自然体験活動を通して、自然のよさを学ぶ心を培い、協力する態度や判断し行動する力を養った。</p>				
点検結果・自己評価(課題・方向性)				
<p>・国内の他の地域の児童との交流を深める事業としての意義が深いことから、他の児童交流事業との関わりも視野に入れながら継続のあり方を検討していく。</p> <p>・飛島が持つ本市固有の学習フィールドとしての価値は、実施校がすべて認めるものである。再開した飛島小学校の児童との交流のあり方も検討していく。</p> <p>・本市は飛島に限らず多様な自然環境にあることから、今後それらの自然環境を体験や交流活動に使えるかどうかの可能性の検討を始める。</p>				

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ						
基本施策	2. 豊かな心と健やかな体の育成						
施策	体験活動、交流活動の推進(2)						
担当部署	社会教育課						
事業の目的及び目標	<p>・自然体験や野外学習、宿泊活動を通して、自然への理解や思いやりのある心豊かな人間性を育み、仲間づくりを図る。</p>						
H21年度 主な事業の概要及び実施状況	<p>○生涯学習推進講座開催事業のうち【さかたっ子・チャレンジ冒険団】が対象  実施回数は、3回で、延べ参加人数は41人となった。  募集に当たっては、カモンくんこどもニュースに掲載し全児童に配布するほか、広報、ホームページへの掲載を行った。</p> <p>&lt;内容&gt;  対象 小学校4～6年生児童</p> <table border="0"> <tr> <td>①甲冑着付け体験(松山地区)・最上川さみだれ大堰見学</td> <td>参加人数 9人</td> </tr> <tr> <td>②夏休み宿泊体験(平田地区)</td> <td>参加人数22人</td> </tr> <tr> <td>③玉簾の滝雪中ウオーキング(八幡地区)</td> <td>参加人数10人</td> </tr> </table>	①甲冑着付け体験(松山地区)・最上川さみだれ大堰見学	参加人数 9人	②夏休み宿泊体験(平田地区)	参加人数22人	③玉簾の滝雪中ウオーキング(八幡地区)	参加人数10人
①甲冑着付け体験(松山地区)・最上川さみだれ大堰見学	参加人数 9人						
②夏休み宿泊体験(平田地区)	参加人数22人						
③玉簾の滝雪中ウオーキング(八幡地区)	参加人数10人						
事業の効果	<p>・参加者数は伸び悩んだものの、参加者アンケートによる満足度は95%と非常に好評で、様々な体験を通し、子ども同士の交流、自然への理解を深めることができた。</p>						
点検結果・自己評価(課題・方向性)	<p>・参加状況を見ると、新規に参加する児童が少ない状況にある。場所の選定や活動内容等の充実に努め、引き続き体験活動、交流活動の機会を提供していく。  ・安全管理マニュアルを作成し、安全管理面の徹底を図る。</p>						

基本的方向	1 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ																						
基本施策	2. 豊かな心と健やかな体の育成																						
施策	相談支援体制の充実																						
担当部署	学校教育課																						
事業の目的及び目標	<p>・いじめや不登校等としてあらわれてくる児童生徒の心の問題について、学校内外で相談できる環境整備を行い、児童生徒の心身の健全育成を図る。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H26</th> <th>H31</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">不登校児童生徒の割合</td> <td>小</td> <td>0.16%</td> <td>0.15%</td> <td>0.1%未満</td> <td>0.1%未満</td> </tr> <tr> <td>中</td> <td>1.92%</td> <td>1.70%</td> <td>1.6%未満</td> <td>1.3%未満</td> </tr> </tbody> </table>								H20	H21	H26	H31	不登校児童生徒の割合	小	0.16%	0.15%	0.1%未満	0.1%未満	中	1.92%	1.70%	1.6%未満	1.3%未満
		H20	H21	H26	H31																		
不登校児童生徒の割合	小	0.16%	0.15%	0.1%未満	0.1%未満																		
	中	1.92%	1.70%	1.6%未満	1.3%未満																		
H21年度 主な事業の概要及び実施状況	<p>○ 教育相談充実事業【予算額7,531千円】【決算額7,372千円】          ・教育相談室での来室・電話相談の実施(新規相談数64件)、不登校児童生徒の保護者研修会を3回実施した。</p> <p>○ 教育相談研講座開催修事業【予算額350千円】【決算額320千円】          ・教育相談研修講座を4回実施、各校教育相談担当者の資質向上のための研修を4回実施</p> <p>○ 適応指導教室(ふれあい教室)維持事業【予算額1,130千円】【決算額895千円】          ・不登校児童生徒の集団適応能力を育成し学校への復帰を目指す。(小学生1名、中学生9名通級)</p> <p>○ スクールカウンセラー等活用事業【予算額10,334千円】【決算額9,554千円】          ・県の事業と合わせながら、スクールカウンセラー(SC)5名を各中学校と中央高校に、教育相談員10名を各中学校に、家庭訪問相談員を要請に応じて派遣した。</p>																						
事業の効果	<p>・不登校児童生徒の割合 平成21年度末 小0.15%、中1.7%。不登校のきっかけとなった主なものとして、いじめ、友人関係、病欠、学業不振、その他本人に関わる問題があげられる。</p> <p>・学校の勧め等により来室や電話での相談が速やかに行われ、問題への初期対応が図られた。</p> <p>・適応指導教室、家庭訪問相談員、児童相談所、子育て支援課等との連携した対応で、保護者の支援も行うことができ、児童生徒により変化が見られる事例が出てきた。</p> <p>・本市の教育相談課題に対応した各種の研修会を開催することにより、日々の指導に生かしてもらうことができた。</p> <p>・SCや家庭訪問相談員、教育相談室、学校との連携で、ふれあい教室に新たに通級ができるようになった生徒もいる。また、ふれあい教室で、多くの人との関わりを体験することで自信を持ち登校できるようになった生徒もいる。</p> <p>・SC、各相談員の校内教育相談体制への位置付けが進み、それぞれの専門性を生かした効果的な活用が図られている。</p>																						
点検結果・自己評価(課題・方向性)	<p>・少しずつではあるが、不登校児童生徒の割合は低下してきており、今後とも児童生徒の気持ちを認めその上で指導するなどの支援を進めていく必要がある。</p> <p>・教育相談室の活用を更に進めるために、各学校への相談専門員の派遣や、ポスター、便り等を通して、児童生徒、保護者へ教育相談システムの周知を図っていく。</p> <p>・教育相談に係わる研修活動の充実を図る。</p> <p>・引きこもり状態になっている児童生徒や保護者は関係機関とのかかわりが途絶えてしまう可能性があるため、家庭訪問相談員による訪問型の支援の充実を図る必要がある。</p>																						

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ				
基本施策	2. 豊かな心と健やかな体の育成				
施策	食育の推進				
担当部署	管理課、学校教育課				
事業の目的及び目標					
<p>食に関する正しい知識や望ましい食習慣を身につけさせる活動を進めるとともに、地元生産者等のネットワークをさらに広げ自然の恵みや生産者へ感謝する心を育む。</p>					
	項目	現状 (20年度)	21年度	5年後 (26年度)	10年後 (31年度)
	地元産野菜利用割合	小 46.1% 中 31.3%	小 48.3% 中 35.1%	小 50% 中 40%	小 50%以上 中 50%以上
H21年度 主な事業の概要及び実施状況					
<ul style="list-style-type: none"> <li>○週5日の米飯学校給食を実施した。</li> <li>○「酒田産給食」を実施した。(各学期毎に1回)</li> <li>○地元産野菜を積極的に学校給食に取り入れた。</li> <li>○米粉を使った調理実習を開催した。(浜田小、若浜小)</li> <li>○毎月「給食だより」を発行した。</li> <li>○栄養教諭、学校栄養士に食指導に関わる研修会を実施した。</li> <li>○学校栄養士による巡回指導を行った。(指導回数104回)</li> </ul>					
事業の効果					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・週5日の米飯学校給食を実施したことにより、日本型食生活の良さを再認識することができた。</li> <li>また、ご飯にあう献立を作成することにより地元産食材の利用率が増加した。</li> <li>・「給食だより」を通して、家庭での望ましい生活習慣を提示するとともに、巡回指導により直接児童生徒に対しても食と健康についての普及を図った。</li> <li>・研修会の実施により、市内小中学校における栄養教諭、学校栄養士の食指導の充実を図ることができた。</li> </ul>					
点検結果・自己評価(課題・方向性)					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・給食における地元産野菜の利用率を高めることにより、郷土の食文化を理解したり、食に関する感謝の心をはぐくむような食育指導を今後も引き続き行っていく必要がある。</li> <li>・酒田では、朝食を家族と一緒に食べる家庭が68.6%(H21年度小学6年生で「している」「どちらかといえばしている」の計)と県平均(70.2%)より低くなっていることから、今後は各家庭との連携活動等に力を入れていく。(別紙資料P.33参照)</li> </ul>					



基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ																							
基本施策	3. 家庭、学校、地域との連携																							
施策	家庭教育の支援																							
担当部署	社会教育課																							
事業の目的及び目標	<p>・親子のスキンシップ、子どもとのコミュニケーション、子どもの心の理解を学ぶことによって保護者から家庭教育の大切さを理解いただくとともに、保護者同士の交流を深める。</p>																							
H21年度 主な事業の概要及び実施状況	<p>○生涯学習推進講座開催事業のうち家庭教育講座が対象 家庭教育講座として4講座、69回実施し、延べ参加者数は4,295人となった。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>事業名</th> <th>実施回数</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">家庭教育</td> <td>さんさん学級(未就学児と保護者)</td> <td>6</td> <td>166</td> </tr> <tr> <td>すくすく出前講座(保育園、幼稚園児と保護者)</td> <td>27</td> <td>1,930</td> </tr> <tr> <td>地域家庭教育講座(小中学校保護者)</td> <td>31</td> <td>2,140</td> </tr> <tr> <td>家庭教育セミナー(保護者)</td> <td>5</td> <td>59</td> </tr> <tr> <td colspan="2">計</td> <td>69</td> <td>4,295</td> </tr> </tbody> </table>			区分	事業名	実施回数	人数	家庭教育	さんさん学級(未就学児と保護者)	6	166	すくすく出前講座(保育園、幼稚園児と保護者)	27	1,930	地域家庭教育講座(小中学校保護者)	31	2,140	家庭教育セミナー(保護者)	5	59	計		69	4,295
区分	事業名	実施回数	人数																					
家庭教育	さんさん学級(未就学児と保護者)	6	166																					
	すくすく出前講座(保育園、幼稚園児と保護者)	27	1,930																					
	地域家庭教育講座(小中学校保護者)	31	2,140																					
	家庭教育セミナー(保護者)	5	59																					
計		69	4,295																					
事業の効果	<p>○さんさん学級:未就学幼児と保護者とのスキンシップを図り、子育ての保護者間の交流の場を提供することができた。 ○すくすく出前講座:今年、市街地保育園、幼稚園から全市へと拡大したことから、昨年に比べ延べ参加人数が約700人伸びた。園との連携によって親子のスキンシップとコミュニケーションを図ることができた。 ○地域家庭教育講座:新型インフルエンザの流行で中止が出て、昨年に比べ延べ人数が約950人減少となった。小学校・中学校PTAとの連携によって、地域の状況に応じた内容で実施でき、家庭教育の大切さの理解が深められた。 ○家庭教育セミナー:講演会及びワークショップを通じて、子どもの心のコーチングについて、より実践的な学習を深めることができた。</p>																							
点検結果・自己評価(課題・方向性)	<p>・全体の延べ参加人数をみると、市街地コミュニティ振興会を対象に実施していた地域交流講座を廃止したこと、新型インフルエンザの流行による中止によって、昨年に比べ全体的には1,015人の減になった。 ・家庭教育セミナーは、参加者が伸びなやんだことから、周知方法や実施内容を見直していく。その他については、参加者アンケートや実施報告書の内容を分析しながらより参加しやすい講座となるよう工夫していく。</p>																							

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ
基本施策	3. 家庭、学校、地域との連携
施策	地域教育力の向上
担当部署	学校教育課、社会教育課、管理課
事業の目的及び目標	
<p>地域の人々が教え、学びあい、世代間の交流と生まれ育った郷土の文化、自然に対する豊かな心を育むため、人材の育成と地域の輪を醸成し、地域全体で「地域の子」、「社会の子」の理念のもと、子どもと地域が交流できる機会を設ける。「かかわり」の中で、人付き合いや礼儀について学んだり、社会のルールを身につけたり、自分の考えをしっかりと伝える力を育む。</p> <p>また、地域に伝わる風習や伝統文化など、地域の特色を生かして行う青少年の体験活動や健全活動に関わる事業を地域全体で取り組む体制づくりを進める。</p>	
H21年度 主な事業の概要及び実施状況	
<p>○生涯学習推進講座開催事業のうち【地域人材交流講座】： 地域の先生として、小、中学生に伝統行事・習わしや農作業、物作りなどを指導していただき、地域に根ざした人材活用と異世代交流を進めた。</p> <p>○放課後子どもプラン事業：【予算額 912千円】【決算額 780千円】 実施箇所 浜中小学校区、一條小学校区 放課後子どもプラン運営委員会を2回開催し、放課後子どもプランの見直しと事業の評価等を協議した。 また、放課後子ども教室については、5月から2月まで、各小学校を会場に、週1回程度実施した。</p> <p>○地域の教育力向上事業：【予算額7,025千円】【決算額6,499千円】 親子での共同作業や三世代交流事業、地域文化の学習と伝承、地域の自然理解などの事業を実施していただいた。実施コミュニティ振興会24団体・未実施1団体・延べ事業数117事業・述べ参加人数11,295人となった。 (詳細は資料P.34参照)</p>	
事業の効果	
<p>○地域人材交流講座： 新型インフルエンザの関係で今回2回実施できなかったが、おおむね当初の計画通りできた。実施回数と人数は、小学校302回、8,655人、中学校95回、3,023人合計397回、11,678人となった。地域住民同士の交流が希薄になりつつある現在、地域・家庭・学校が手を結び合い、子どもの生きる力を育み、地域の人材を活用した異世代交流を図る事業として実施できた。 子ども達は、地域の先輩から生きた生活体験や歴史などを学ぶとともに指導する人達は教える喜びや新たな生きがいを見出している。</p> <p>○放課後子どもプラン事業： 放課後子ども教室の最終登録児童は、125人(浜中小学校区63人、一條小学校区62人)となった。対象児童の参加率は69%(浜中小学校区91%、一條小学校区56%)となった。実施回数は、42回(浜中小学校区21回、一條小学校区21回)となり、延べ参加児童数は、2,152人(浜中小学校区1,096人、一條小学校区1,056人)となった。</p> <p>○地域の教育力向上事業： 地域の特色を生かした事業により、子供たちが地域の各年代との交流(かかわり)や体験をとおして、地域理解を深め生きる力の醸成が図られた。</p>	
点検結果・自己評価(課題・方向性)	
<p>・地域人材交流講座：地域住民同士の交流が希薄になりつつある現在、地域・家庭・学校が手を結び合い、子どもの生きる力を育み、地域の人材を活用した異世代交流を図る事業として有効であることから引き続き実施していく。</p> <p>・放課後子どもプラン事業：3年間のモデル地区を総括し、小学校と地域の連携が十分に図られている現状などから、21年度をもって終了する。</p> <p>・地域の教育力向上事業：本事業の初年度にあたり、一つの小学校区に複数のコミュニティ振興会がある地域では、学校、PTAとの連携を円滑に図ることができなかったことから、複数のコミュニティ振興会による事業の共同開催など、連携のあり方について検討を行っていく。また、地区コミュニティ振興会間の情報交換も行いながら、今後事業を継続していくなかで課題の解決を図っていく。また、社会教育の支援体制として、社会教育指導員と職員による相談業務を継続して実施していく。</p>	

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ
基本施策	4. 教育環境の整備
施策	学校施設の整備
担当部署	管理課

**事業の目的及び目標**

旧耐震基準により設計された施設の耐震性能を高めるため、計画的に耐震診断を行い、必要に応じ改修・改築を行うことにより、学校施設の耐震化を推進し、安全安心な施設整備を図る。

学校の良好な教育環境整備を図る。

項目	算出方法	20年度	21年度(現状)	26年度	31年度
学校施設の耐震化の割合	耐震化済みの学校施設割合(校舎、体育館)	小54.8%	小55.1%	小85%	小100%
		中62.5%	中62.5%	中90%	中100%

21年度は、広野小 校舎 体育館を耐震化

酒田市耐震化計画に基づき、平成27年度を目標に特別の事情があるもの以外の耐震化を図る。

**H21年度 主な事業の概要及び実施状況**

- 耐震化の進捗率(H22. 3. 31現在):小学校が約55.17%、中学校が約62.5%
  - 耐震診断事業(小学校)【予算額 27,441千円】【決算額 27,441千円】
  - 耐震診断事業(中学校)【予算額 11,842千円】【決算額 11,842千円】鳥海中4,561千円は債務負担
- 旧耐震基準により設計された施設の耐震性能を確認するため、計画的に耐震診断を行う。

年度	耐震診断実施校数	備考
H19年度以前	4校	若浜小校舎、松原小校舎、第二中校舎、第一中校舎
H20年度	3校	広野小校舎・体育館、宮野浦小校舎・体育館、第二中校舎・体育館
H20・21年度	3校	亀城小校舎、松原小体育館、琢成小校舎・体育館
H21年度	4校	松山小校舎・体育館、松陵小校舎、飛鳥中校舎・体育館、鳥海中校舎
H22年度	3校	泉小校舎・体育館、富士見小校舎・体育館、松山中校舎

- 広野小学校屋内運動場改築事業【予算額 275,810千円】【決算額 274,270千円】  
屋内運動場約987㎡の改築工事を行った。
- 第一中学校校舎改修事業【予算額 620,797千円】【決算額 291,673千円】【繰越 329,064千円】  
校舎教室棟約3,284㎡の改築工事(H21、22継続)及び管理棟の改修設計、工事を行った。  
校舎棟改築工事はH22へ56,164千円、管理棟改修工事は、H22へ272,900千円繰越し。
- 宮野浦小学校改修事業【予算額 272,615千円】【決算額 6,615千円】【繰越 266,000千円】  
校舎、屋内運動場の改修の設計、工事を行った。  
改修工事はH22へ、266,000千円繰越し。
- 施設整備事業(小学校)【予算額 38,909千円】【決算額 13,404千円】【繰越 22,536千円】  
主な改修内容:プール塗装(田沢小)、校舎屋根防水改修(港南、富士見、若浜小)、給湯器入替(富士見小)、FF暖房機改修(浜中小)、防火シャッター改修(八幡小)を行った。

○施設整備事業(中学校)【予算額 31,531千円】【決算額 21,411千円】【繰越 8,678千円】

主な改修内容:バックネット改修(第一中)、防球ネット改修(第三中、第四中、第六中)、校舎屋根防水改修(第六中)、屋内運動場床塗装(第六中)、特別支援学級改造(第三中)を行った。

事業の効果

- ・耐震診断の実施と計画的に改修・改築に取り組むことにより、学校施設の耐震化を推進することができた。
- ・施設の改修を行うことにより学校施設の環境整備を図ることができた。

点検結果・自己評価(課題・方向性)

- ・児童の安全確保と災害時の避難場所としての機能確保のため、引き続き学校施設の耐震化を推進する必要がある。
- ・学校の良い環境を確保するために施設整備事業を実施する必要がある。

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ
基本施策	4. 教育環境の整備
施策	学校規模の適正化の推進
担当部署	管理課
事業の目的及び目標	<p>少子化による児童生徒の減少と学校の小規模化が進む中、学校教育に寄せられる時代の要請に応えるため、学区の改編により学校規模の適正化を図り、教育環境を整えていく。</p> <p>適正配置に関する方針等に基づき、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第一中学校と第五中学校(平成23年度)</li> <li>・ 第二中学校と平田中学校(平成24年度)</li> <li>・ 東平田小学校、中平田小学校及び北平田小学校(平成25年度)</li> </ul> <p>の統合を進める。</p>
H21年度 主な事業の概要及び実施状況	<p>○学区改編推進事業【予算額 913千円】【決算額 703千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学区改編審議会の開催(2回)</li> <li>・鳥海中と八幡中、第一中と第五中、第二中と平田中の統合準備委員会及び各部会を開催し、課題の整理を行った。</li> <li>・「学区改編だより」を発行し、地域の方々に統合の計画や統合準備の進行状況の周知を図った。</li> </ul> <p>○学校統合事業【予算額 41,797千円】【決算額 40,637千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鳥海中と八幡中の統合について、統合校である鳥海八幡中の校歌・校章デザイン制作委託、施設修繕、備品等の移転、閉校式典、中型スクールバス3台購入、閉校記念事業事業補助金、部活ユニホーム補助金等の支出を行った。</li> <li>・第一中と第五中の統合について、統合準備委員会の各部会において、課題の整理を進めた。22年度に残った課題を整理する。</li> <li>・第二中と平田中の統合について、統合準備委員会の各部会において、課題の整理を進めた。22・23年度に残った課題を整理する。</li> <li>・東平田小、中平田小及び北平田小の統合について、1月の教育委員会で、平成25年度に統合する方針を決定した。今後地域説明会を開催し、理解に努める。</li> </ul>
事業の効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・統合準備委員会で想定された課題の整理を進め、平成22年4月に鳥海八幡中学校を開校した。</li> <li>・学校統合により、生徒が適正規模の環境の中で学習活動を行うことで、学校の活性化が進められた。</li> <li>・統合準備委員会が組織された地区では、具体的な協議を進めていく中で、学校統合に対する地域の理解が深まった。</li> </ul>
点検結果・自己評価(課題・方向性)	<p>・今後ますます進行する少子社会の中で、子どもたちの教育環境を整備するため、適正規模に課題のある学校については地域住民と充分時間をかけて話し合い、理解と合意のもとに学校の適正規模化、適正配置に努める。</p>

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ
基本施策	4. 教育環境の整備
施策	通学の安全確保
担当部署	学校教育課
事業の目的及び目標	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の通学の安全を確保するため、地域学校安全指導員の活動など学校、地域の連携を深めるとともに、遠距離通学対策の充実を図る。</li> </ul>	
H21年度 主な事業の概要及び実施状況	
<p>○ 子どもの安全安心通学対策事業【予算額42千円】【決算額27千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域学校安全指導員5名による各学校の見守り隊や酒田警察署との連絡調整を行った。</li> <li>・青色回転灯を装備した車両による防犯パトロールについて、市教委として見守り隊協力者や学校教職員26名に警察より証明を受け、回転灯の購入・貸与、パトロール車表示用ステッカーの購入・貸与を行った。</li> <li>・メール配信希望の保護者や地域の方々に不審者情報の一斉配信ができた。一斉メール配信システムのPRを小中学校、幼稚園の保護者等に行った。</li> <li>・不審者情報等の一斉メール配信システムの運用を行った。 (登録件数4,510件(H22.3.31時点)、H21配信数24件)</li> </ul> <p>○ 遠距離通学対策【予算額36,669千円】【決算額31,238千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・通年は、小学校概ね4km、中が概ね6km以上を対象として、スクールバス運行またはバス定期券の交付により実施している。</li> <li>・冬期間は、小中学校とも概ね3km以上を対象とし、バス対応は約70日、定期券対応は3ヶ月分の経費の負担を行った。</li> </ul>	
事業の効果	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学校の見守り隊や酒田警察署との連絡調整を図りながら、各学校、機関相互の情報交換や酒田警察署と連携した活動を行うことができた。</li> <li>・パトロール車両として青色回転灯を装着し、パトロール地域での巡回を繰り返し行うことができた。</li> <li>・一斉退校や学級閉鎖に伴う下校時間の繰り上げ等の情報を個別に安全安心メールで配信したことにより、学校から保護者への連絡の手助けになった。</li> <li>・遠距離通学の安全を確保するとともに、通学費用に係る保護者の負担軽減を図ることができた。</li> </ul>	
点検結果・自己評価(課題・方向性)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・見守り隊連絡協議会やリーダー研修会を通して、相互の理解を更に図るとともに、パトロール実施者の増員を図る。また、各学区の安全マップの見直し・更新を学校・PTAに働きかけていく。</li> <li>・メール配信システムの利用登録者の増加のため、広報活動の強化拡大を図り、併せて、学校からの一斉下校等の情報も迅速に配信できるようにする。</li> <li>・今後学校統合により、スクールバスによる遠距離通学の増加が見込まれる。部活動利用等のスクールバス運行に、統一した基準を設定し平準化を図る必要がある。</li> </ul>	

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ																					
基本施策	4. 教育環境の整備																					
施策	学校ICT環境の整備充実																					
担当部署	学校教育課																					
事業の目的及び目標																						
時代に対応したICT環境としていくために、教育用コンピュータ及び校務用コンピュータ等のICT機器の保守及び更新を定期的に進めると共に、適正な運用を図る。																						
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H26</th> <th>H31</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">授業でICT機器を使用 できる教員の割合</td> <td>小</td> <td>51%</td> <td>52%</td> <td>75%</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>中</td> <td>46%</td> <td>45%</td> <td>70%</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table>								H20	H21	H26	H31	授業でICT機器を使用 できる教員の割合	小	51%	52%	75%	100%	中	46%	45%	70%	100%
		H20	H21	H26	H31																	
授業でICT機器を使用 できる教員の割合	小	51%	52%	75%	100%																	
	中	46%	45%	70%	100%																	
H21年度 主な事業の概要及び実施状況																						
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ デジタルキャンパスネットワーク【予算額49,638千円】【決算額48,373千円】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校759台、中学校449台の教育用コンピュータをリースで整備しており、H21年度は42台更新した。</li> </ul> </li> <li>○ 学校ICT環境整備事業【予算額214,897千円】【決算額183,107千円】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・電子黒板38台を38小中学校に整備、デジタルテレビ393台を38小中学校に整備した。</li> <li>・校務用PCを582台、教育用PCを38台整備した。</li> </ul> </li> </ul>																						
事業の効果																						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報活用や情報モラルについて、授業の中で学習することにより、情報化社会を生きる力を育てることができた。</li> <li>また、各教科の授業において、PC及びICT機器を効果的に活用することで、より深い内容の理解をすることができる。</li> <li>・電子黒板、デジタルテレビ、校務用コンピュータ等の整備が進み、基盤整備が図られた。</li> <li>・平成21年度末の授業でICTを活用できる教員の割合は小学校 52%、中学校 45%であった。</li> <li>・各学校において、校務処理に必要な様式やデータ等が共有できる環境の整備ができた。</li> </ul>																						
点検結果・自己評価(課題・方向性)																						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育用コンピュータは今後とも児童生徒の情報活用能力の育成のために、定期的に更新をしながらリースによる整備を継続していく必要がある。</li> <li>・電子黒板、デジタルテレビ、コンピュータを効果的に活用した指導法の普及と活用力の育成を図っていく。</li> <li>・セキュリティポリシーの策定に向け、準備作業を継続する必要がある。</li> </ul>																						

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ
基本施策	4. 教育環境の整備
施策	教育の機会均等
担当部署	管理課
<b>事業の目的及び目標</b> 大学等の修学や私立高等学校で教育を受ける際の経済的負担を軽減するため、市独自の制度による支援を行い、教育を受ける機会を確保する。	
<b>H21年度 主な事業の概要及び実施状況</b> ○大学等修学支援事業【予算額 3,426千円】【決算額 2,808千円】 本市出身の学生に対する大学等修学に係る経済的支援を図るため、教育ローンの利子を補給する。 新規交付 32件 1,137,727円 継続交付 50件 1,669,981円 計 82件 2,807,708円 ○私立高等学校生徒授業料軽減事業【予算額 2,184千円】【決算額 2,184千円】 私立高等学校に在籍している生徒の授業料等に係る負担軽減を図るため、補助金を交付する。 生活保護被保護世帯 1件 60,000円 市民税非課税世帯 39件 1,404,000円 市民税均等割課税世帯 20件 720,000円 計 60件 2,184,000円	
<b>事業の効果</b> ・大学、短大、専門学校等への修学の動機付けとなるとともに、保護者の経済的負担の軽減が図られた。 ・私立高等学校に在籍している生徒の保護者の経済的負担の軽減が図られた。	
<b>点検結果・自己評価(課題・方向性)</b> ・経済情勢が不安定な中で、子どもたちの教育を受ける機会を確保するための施策は今後も必要と考える。 ・平成22年度より、国の施策による公立高校の授業料無償化と私立高校生徒への支援金の支給が行われるが、対象となるのは狭義の授業料のみであり、私立高校ではまだ保護者の経済的負担が残ることから、本制度を継続し、支援する必要がある。 ・平成22年度より、寄附金等を活用した給付型奨学金制度も実施する。	



基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ
基本施策	5. 信頼される学校、開かれた学校づくりの推進
施策	教職員研修等の充実
担当部署	学校教育課
事業の目的及び目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・信頼される学校づくりを推進するため、教員の指導力向上や資質向上のための研修活動、教員評価を実施する。</li> </ul>
H21年度 主な事業の概要及び実施状況	<p>○初任者研修、教職10年経験者研修の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市としての初任者研修を年2回実施した。(該当者7名)</li> <li>・市としての教職10年経験者研修は5月に全体研修の実施と「知見を広める体験研修」として企業や福祉施設等における体験的研修を実施した。(該当者9名)</li> </ul> <p>○各種研修会の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援コーディネーター資質向上研修を3回実施した。</li> <li>・教育相談研修講座を4回、教育相談担当者を対象としたスーパーバイザー研修会を4回実施した。(延べ約500名の参加)</li> <li>・理科教育に係わり、理科室経営研修、理科教育基礎研修、教材開発研修①②を実施した。(延べ約80名の参加)</li> <li>・市教育研究所の各部会で教科指導等の研修会を合計78回実施した。</li> </ul> <p>○教員評価の試行</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・すべての教員について、その資質を向上させるために教員評価を試行した。</li> </ul>
事業の効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初任者研修では、教員としての意欲を喚起することができた。市内の教育相談施設や幼稚園、特別支援施設を訪問し、日頃訪問することの少ない施設の具体的な活動事例を通し、学校教育の役割を再認識し教員としての自覚を促すことができた。</li> <li>・教職10年経験者研修では民間企業や福祉施設における体験的研修を通して、教職以外の仕事の厳しさや難しさ、働く喜びや社会貢献の大切さを実感することができた。</li> <li>・特別支援教育、教育相談、理科教育をはじめとした各教科での研修を実施したことにより、各分野とも参加した教員の指導力向上につながった。</li> <li>・教員評価を実施したことにより、自己目標の設定とその達成に向けての過程において、各教員の意欲向上が図られた。</li> </ul>
点検結果・自己評価(課題・方向性)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員としての責任を再認識しなければならない事案が起きていることから、学校における指導力向上の研修を一層充実させるとともに、教員の資質向上に向けて、各種研修活動や教員評価を充実させる。</li> </ul>

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ
基本施策	5. 信頼される学校、開かれた学校づくりの推進
施策	学校運営の公開と学校評価システムの推進
担当部署	学校教育課
事業の目的及び目標	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・信頼され開かれた学校づくりを進めるため、保護者や地域住民の学校運営への参画や教育活動等の評価システムの機能を充実させる。</li> </ul>	
H21年度 主な事業の概要及び実施状況	
<p>○学校評議員会、学校評価の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全小中学校で学校評議員が委嘱され、学校運営に関する意見をいただくことができた。</li> <li>・学校経営に関する児童生徒、保護者、教職員のアンケートを実施し、その結果を元に学校関係者評価が行われ学校経営に関する評価をいただくことができた。</li> </ul> <p>○学校支援地域本部事業の実施【予算428千円】【決算407千円】(県からの委託事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校支援コーディネーターを配置し、学校と地域の連携体制構築のための活動を試行した。</li> </ul>	
事業の効果	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒や保護者のアンケート、学校評議員の意見を取り入れながら評価を行い、その結果を保護者や学校関係者に示したことで、すべての学校において、何らかの形で学校経営に反映させることができた。</li> <li>・学校支援コーディネーターの働きにより、学校を支援する地域のボランティアとの連携がスムーズに行えるようになった。</li> </ul>	
点検結果・自己評価(課題・方向性)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校関係者へのアンケート等はよく実施された。その結果をもとにした話し合いの場を持ち、地域の方々の学校理解をさらに深めること、学校の課題を共有すること等が課題となっている。</li> <li>・学校と地域の連携を密にするために、学校支援コーディネーターによる連絡調整活動を充実させていく。</li> </ul>	

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ										
基本施策	5. 信頼される学校、開かれた学校づくりの推進										
施策	特色ある学校づくりの推進										
担当部署	学校教育課										
事業の目的及び目標											
<p>・地域社会や児童生徒の実態を踏まえ、各学校の経営の柱として、特色ある教育活動を展開し、活力ある学校経営を推進する。</p>											
H21年度 主な事業の概要及び実施状況											
<p>○ 特色ある学校づくり支援事業【予算額5,850千円】【決算額5,850千円】</p> <p>・各小中学校からの特色ある学校づくりに係わるテーマ及び主な教育活動の提出を受け、1校当たり150千円を酒田市補助金等交付規則による交付金として運用する。</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="padding-left: 40px;">地域連携のための活動を主なものとしている学校</td> <td style="text-align: right;">25校</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 40px;">児童生徒の感性を育てる活動を主なものとしている学校</td> <td style="text-align: right;">12校</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 40px;">学校美化、地域環境保全活動を主なものとしている学校</td> <td style="text-align: right;">10校</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 40px;">児童会・生徒会活動への支援を主なものとしている学校</td> <td style="text-align: right;">10校</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: right;">学校数は延べ数</td> </tr> </table>		地域連携のための活動を主なものとしている学校	25校	児童生徒の感性を育てる活動を主なものとしている学校	12校	学校美化、地域環境保全活動を主なものとしている学校	10校	児童会・生徒会活動への支援を主なものとしている学校	10校		学校数は延べ数
地域連携のための活動を主なものとしている学校	25校										
児童生徒の感性を育てる活動を主なものとしている学校	12校										
学校美化、地域環境保全活動を主なものとしている学校	10校										
児童会・生徒会活動への支援を主なものとしている学校	10校										
	学校数は延べ数										
事業の効果											
<p>・学校が新たに解決すべき課題を明確にしたり、めざす学校像・児童生徒像の焦点化が行われた。</p> <p>・特色ある学校づくりで、取り組もうとする内容をテーマ化したことで、目的意識が明確な学校づくりにつながっている。</p> <p>・成果については、各学校で設定した2～4項目の観点から、活動の観察やアンケート、学校評価の結果等を5段階で評価した。各観点の平均は4.1となった。(H20年度4.1)</p>											
点検結果・自己評価(課題・方向性)											
<p>・設定するテーマの重点化、焦点化を更に進め、学校の特色づくりを推進していく。</p>											

基本的方向	Ⅱ 世代を超えてまなびあう
基本施策	6. 生涯学習の充実
施策	生涯学習社会の基礎づくり
担当部署	社会教育課

**事業の目的及び目標**

市民が、「いつでも」「どこでも」「だれでも」気軽に生涯学習できるように、市民ニーズの把握に努めるとともに、生涯各期に応じた必要課題を設定し、各種講座等を開催する。

項目	26年度	31年度
生涯学習事業の満足度	83%	85%以上

**H21年度 主な事業の概要及び実施状況**

**○生涯学習推進講座開催事業【予算額 7,124千円】【決算額 6,064千円】**

市民がいつでも、どこでも、だれでも気軽に生涯学習できるよう、幼児から成人までの幅広い年代層を対象とした講座を45講座、実施回数690回開催して、延べ参加人数は39,829人となった。

幼児講座－4講座、実施回数12回、延べ参加人数1,316人、少年講座－7講座、実施回数467回、延べ参加人数13,760人、青年講座－6講座、実施回数45回、延べ参加人数775人、成人講座－14講座、実施回数79回、延べ参加人数1,099人、家庭教育講座－4講座、実施回数69回、延べ参加人数4,295人、指導者養成講座－3講座、実施回数11回、延べ参加人数149人、催し－7講座、延べ参加人数18,435人となった。(詳細は別紙資料P.35参照)

**○東北公益文科大学市民講座開催事業【予算額 297千円】【決算額 265千円】**

「これからの時代を読む」という年間テーマに沿って、大学教員より専門分野を分かりやすく講義いただきながら、市民に開かれた大学を体験する講座の開設と、地域などの団体の要請に応じ、教員が地域などに出向いて講義をする出前講座を実施した。

市民大学講座一昼の部 実施回数5回、延べ参加人数269人  
夜の部 実施回数5回、延べ参加人数108人

出前講座 実施回数6回  
(詳細は別紙資料P.36参照)

**事業の効果**

・生涯学習推進講座開催事業:各世代の課題に対応した講座を開催し、多くの参加者を得ることができた。満足度は85%となって、目標を達成できた。

・東北公益文科大学市民講座開催事業:市民大学講座は「高齢化・まちづくり」を現代的課題として選定し、地域を見直す機会とした。また、受講生も目標である昼50人を得ることができた。出前講座は、各団体・サークル等のニーズに沿った講座を提供することができ、好評であった。

**点検結果・自己評価(課題・方向性)**

・生涯学習推進講座開催事業:参加者のアンケートなどを参考にして、各年代の課題や住民のニーズを把握しながら事業の見直しを行なっている。参加者の満足度は50%～100%であり、83%以上の講座は2/3程度であるが、より満足できるような講座編成の見直しが必要である。また、成人・青年層への働きかけや青少年の事業を引き続き展開していく。特に青年男性の参加向上のため、青年会議所や民間団体との連携を図っていく。

・東北公益文科大学市民講座開催事業:比較的高い年齢の方々の受講者が多く、一部固定化している状況もある。テーマやPR等を工夫して広範な世代参加を図っていく。また、受講の成果を地域に還元していく仕組みも検討していく。

基本的方向	Ⅱ 世代を超えてまなびあう
基本施策	6. 生涯学習の充実
施策	学習機会の提供
担当部署	社会教育課
事業の目的及び目標	
<p>・多様化・個別化する学習ニーズに応えるとともに、教室・講座事業の自主サークル化を促進し、サークルリーダーの育成をはじめ、指導者の養成に努める。</p> <p>・市民が自らを高め、社会の急激な変化に対応できるよう、市民大学や出前講座を実施し、新しい課題に関する学習機会の提供をする。</p>	
H21年度 主な事業の概要及び実施状況	
<p>○生涯学習推進講座開催事業のうち【成人講座、指導者養成講座、催し】</p> <p>多様な学習ニーズに応えるため講座を開催した。成人講座－14講座、79回、延べ人数1,099人、指導者養成講座－3講座、実施回数11回、延べ参加人数149人、催し－7講座、延べ参加人数18,435人となった。（詳細は別紙資料P.35参照）</p> <p>知の循環型社会のシステムの試行として、指導者登録とあわせ市民企画講座を募集し、6講座を審査のうえ実施した。発表の場として生涯学習まつりを10月23日から25日まで開催した。</p> <p>○東北公益文科大学市民講座開催事業(再掲)【予算額 297千円】【決算額 265千円】</p> <p>【生涯学習社会の基礎づくり】欄に記載</p>	
事業の効果	
<p>・成人趣味教養講座、指導者養成講座:21年度のサークル化の実態は2件程度となっている。指導者登録 21年度末27名登録。</p> <p>・東北公益文科大学市民講座開催事業(再掲):【生涯学習社会の基礎づくり】欄に記載</p>	
点検結果・自己評価(課題・方向性)	
<p>・成人趣味教養講座、指導者養成講座:趣味・教養講座については各3～5年で見直しをし、講座回数は5～10回程度となっているが、サークル化に向けた受講生の醸成のためには内容の充実及び回数の増も検討していく必要がある。市民生涯学習支援の指導者登録も十分対応できていないことから、今後制度の更なるPRが必要である。</p> <p>・東北公益文科大学市民講座開催事業(再掲):【生涯学習社会の基礎づくり】欄に記載</p>	

基本的方向	Ⅱ 世代を超えてまなびあう
基本施策	6. 生涯学習の充実
施策	地域活動の活性化
担当部署	社会教育課
事業の目的及び目標	<p>地域の教育力向上のため、対象コミュニティ振興会25団体で地域の特性を活かした、青少年の体験活動や健全育成に関する事業を委託するとともに、地域の先生の更なる活用を図る。</p>
H21年度 主な事業の概要及び実施状況	<p>○地域の教育力向上事業(再掲)【予算額7,025千円】【決算額6,499千円】 【地域の教育力向上】欄に記載</p> <p>○生涯学習推進講座開催事業のうち【地域人材交流講座】 【地域の教育力向上】欄に記載</p>
事業の効果	<p>・地域の教育力向上事業(再掲):【生涯学習社会の基礎づくり】欄に記載 ・生涯学習推進講座開催事業のうち【地域人材交流講座】:【生涯学習社会の基礎づくり】欄に記載</p>
点検結果・評価(課題・方向性)	<p>・地域の教育力向上事業(再掲):【生涯学習社会の基礎づくり】欄に記載 ・生涯学習推進講座開催事業のうち【地域人材交流講座】:【生涯学習社会の基礎づくり】欄に記載</p>

基本的方向	Ⅱ 世代を超えてまなびあう
基本施策	6. 生涯学習の充実
施策	学習団体及び社会教育関係団体への支援と連携
担当部署	社会教育課
事業の目的及び目標	生涯学習団体による自主活動を推進するための運営費について支援する。
H21年度 主な事業の概要及び実施状況	<p>○生涯学習振興支援事業：【予算額 996千円】【決算額 899千円】</p> <p>(1) 子ども会育成連合会補助金</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・補助金額 90千円</li> <li>・補助団体 酒田市子ども会育成連合会</li> <li>・活動内容 子どもまつり、酒田まつり山車行列参加、リーダー学習会、出前講座、関係機関交流会、会報発行ほか</li> </ul> <p>(2) 海洋少年団補助金</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・補助金額 144千円</li> <li>・補助団体 酒田海洋少年団</li> <li>・活動内容 子どもまつり参加、通常訓練、合宿訓練、全国大会ほか</li> </ul> <p>(3) 婦人会連絡協議会補助金</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・補助金額 330千円</li> <li>・補助団体 酒田市婦人会連絡協議会</li> <li>・活動内容 酒田・飽海大会、研修会ほか</li> </ul> <p>(4) 酒田市青少年を伸ばそう市民会議補助金</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・補助金額 135千円</li> <li>・補助団体 酒田市青少年を伸ばそう市民会議</li> <li>・活動内容 青少年の健全育成に係る会員研修、啓発活動ほか</li> </ul> <p>(5) 白鳥を愛する会補助金</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・補助金額 200千円</li> <li>・補助団体 酒田市白鳥を愛する会</li> <li>・活動内容 自然環境づくり(マコモ植栽)、白鳥観察会ほか</li> </ul> <p>○生涯学習施設「里仁館」支援事業【予算額 7,300千円】【決算額 7,300千円】</p> <p>教養講座や親子講座、特別講座等の各種事業を実施している「里仁館」の運営費に対して支援した。主催講座として、49講座、講座回数106回を開催、延べ受講者数は4,576人となった。文化・スポーツ施設開放を含む延べ利用人数は25,484人となった。(詳細は別紙資料P.37参照)</p>
事業の効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯学習振興支援事業：補助金の交付により、それぞれの団体の活動の活性化に資することができた。</li> <li>・生涯学習施設「里仁館」支援事業：講座の利用数が25,484人となり、20年度より2,037人増加した。受講生のニーズに対応するため、有識者や館学生等による講座編成委員会を開催して内容等を決定して実施した。</li> </ul>
点検結果・自己評価(課題・方向性)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯学習振興支援事業：生涯学習団体が主体となって事業を実施しているので、今後も引き続き支援していく。</li> <li>・生涯学習施設「里仁館」支援事業：地域が主体となって運営する生涯学習施設で、庄内地域の生涯学習の振興に寄与している。経営基盤の整備と法人化について検討している。</li> </ul>

基本的方向	Ⅱ 世代を超えてまなびあう
基本施策	7. 図書館活動の充実
施策	図書館機能の充実
担当部署	図書館

事業の目的及び目標

市民の生涯学習の拠点として、図書資料や窓口サービスの提供等を通して、知識や教養の習得機会を求める声に応えるものである。

項目	算出方法	現 状 (20年度)	5年後 (26年度)	10年後 (31年度)
図書館利用状況	館外貸出冊数	546,768冊	587,000冊	667,000冊
	館外貸出人数	150,842人	160,000人	165,000人

H21年度 主な事業の概要及び実施状況

○館外貸出冊数は、一般図書が394,059冊、児童図書が167,375冊で合計561,434冊となった。館外貸出人数は、155,889人になった。  
 ○定例のお話会には、累計で370名の参加があった。読み聞かせボランティア講座には、累計で125名の参加があった。家庭読み聞かせ講座には、31名の参加があった。  
 ○八幡分館を八幡タウンセンター内に移転し、22年1月4日にリニューアルして開館した。蔵書数は、それまでの6,400冊から12,000冊に倍増した。貸出冊数はそれまで横ばいだったのが、リニューアル後は7倍に伸びた。(前年の662冊に対して、4,948冊となった。(1月～3月の比較))  
 ○図書リサイクルは、16年度に実施して以降中止していたが、21年度に再開し、多数の参加があった。  
 ○飛鳥小学校に対してはリサイクル図書の中から156冊の児童図書を提供した。

事業の効果

- ・貸出人数・冊数ともに堅調な伸びを示した。
- ・お話会や家庭読み聞かせ講座は、幼児期からの読書習慣の形成と親子のふれあいの場をつくるきっかけづくりになった。
- ・窓口サービスを頻繁に利用していただいた結果、レファレンスの件数は比較的簡易なものも含めて、前年の4,794件から8,882件と大幅な伸びを示した。
- ・インターネットによる予約件数は、14,594件から18,121件に増加したが、新しい図書管理システムの導入が、利用者サービスの向上につながっていることを現している。
- ・八幡分館の移転により、図書資料の拡充だけでなく、窓口での各種サービスにも力を入れることで、利用者の方々より好評を得ることができた。

点検結果・自己評価(課題・方向性)

- ・目標数値は、いずれも5年後の目標値を達成しうるペースで伸びており、今後もペースを維持できるように、新刊紹介のPRや企画展示等に努力する。
- ・レファレンスの業務量が増加する中、より早く、よりの確に対応できる方法を検討する。
- ・システムの機能が向上し、より手軽に資料検索や予約が可能となり、また、受取・返却館の選択がフリーなため、各館との物流をよりスムーズに行う必要がある。より早く、確実に利用者に提供できる方法を検討する。
- ・郷土資料の充実は公立図書館の役割の一つであり、八幡分館の拡充に併せ、その整備に力を入れる。



基本的方向	Ⅱ 世代を超えてまなびあう														
基本施策	7. 図書館活動の充実														
施策	光丘文庫の保全と活用														
担当部署	図書館														
事業の目的及び目標	<p>大正14年に竣工され、平成8年には酒田市指定有形文化財に指定されている歴史的な建造物であり、その維持・保存を行うものである。館内には、本間家三代当主の本間光丘の時代から収集された古文書等が数多く所蔵されており、その分類・整理をはじめとして、資料を活用した企画展示を行うものである。</p> <p>また、これらの貴重な資料の閲覧に訪れる全国各地からの来館者への対応やレファレンス業務を行うものであり、資料を適切に管理し、あわせて利用者の拡大をはかるものである。</p> <p>施設の老朽化への対応と資料の適切な管理を行うため、将来構想を検討するものである。</p>														
H21年度 主な事業の概要及び実施状況	<p>○所蔵古文書の整理・分類・保存の他、企画展示、利用者への案内・説明等を実施した。全国的にも貴重な資料であるため、多くの専門家も訪れている。</p> <p>常設展示(17ケース) 前期 20種 101冊、後期 18種 75冊 (半年ごとの入れ替え) レファレンス処理件数 42件</p> <p>○館報「光丘」を年3回発行した。(6/1 第133号、10/1 第134号 2/1 第135号) 将来構想の検討については、過去に、建物の現況調査を含めて在り方を検討したものの結論に至らなかった経緯がある。21年度においても、具体的な方向性は示せなかった。</p>														
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>算出方法</th> <th>19年度</th> <th>20年度</th> <th>21年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入館者数</td> <td>4,264人</td> <td>2,982人</td> <td>2,553人</td> </tr> <tr> <td>利用者数</td> <td>421人</td> <td>347人</td> <td>320人</td> </tr> </tbody> </table>			算出方法	19年度	20年度	21年度	入館者数	4,264人	2,982人	2,553人	利用者数	421人	347人	320人
算出方法	19年度	20年度	21年度												
入館者数	4,264人	2,982人	2,553人												
利用者数	421人	347人	320人												
事業の効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・所蔵本の企画展示は常時開催されているため、自由に閲覧していただいた。</li> <li>・遠方から来館される研究者の方々にも必要な資料を提供することができた。</li> <li>・館報「光丘」を発行することで、市内外の団体・個人や文庫の利用者に対して、郷土資料の紹介・解説を行い、また、毎回、酒田にゆかりのある著名人からの寄稿をいただきながら紹介することができた。</li> <li>・読書感想文コンクールの入選作を掲載することで、コンクールのPRと中学生の読書活動の啓発を行った。</li> </ul>														
点検結果・自己評価(課題・方向性)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入館者数と利用者数が減少傾向にあるため、利活用について検討する。</li> <li>・建物の老朽化が進む中、将来構想の検討は急務とされているが、関係課との調整が必要と考えている。引き続き、取り巻く環境を注視しながら検討を進める。</li> <li>・資料自体も劣化が進む中、その保存方法の検討も必要と考えている。後世に引き継ぐための効率的な方法を検討するものである。</li> </ul>														

基本的方向	Ⅱ 世代を超えてまなびあう										
基本施策	7. 図書館活動の充実										
施策	子どもの読書活動の推進(再掲)										
担当部署	図書館										
事業の目的及び目標	<p>子どもの読書環境を整えることにより、一人ひとりの子どもが自然に読書に親み、読書活動が活発になることを目指す。</p> <table border="1" data-bbox="470 638 1252 828"> <thead> <tr> <th>算出方法</th> <th>現状 (21年度)</th> <th>目標 (27年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童図書の間貸出冊数</td> <td>167,375冊</td> <td>183,000冊</td> </tr> <tr> <td>学校団体貸出の間貸出冊数</td> <td>2,510冊</td> <td>3,000冊</td> </tr> </tbody> </table>		算出方法	現状 (21年度)	目標 (27年度)	児童図書の間貸出冊数	167,375冊	183,000冊	学校団体貸出の間貸出冊数	2,510冊	3,000冊
算出方法	現状 (21年度)	目標 (27年度)									
児童図書の間貸出冊数	167,375冊	183,000冊									
学校団体貸出の間貸出冊数	2,510冊	3,000冊									
H21年度 主な事業の概要及び実施状況	<p>○児童図書の間貸出冊数は、前年度より1,835冊減少したが、学校団体への貸出冊数は、ほぼ同冊数となった。</p> <p>○乳幼児をはじめ、小学校低学年・高学年、また中学生の各年代に適した選書を行った。また、夏休み期間は、課題図書や指定図書その他、利用が増加する作文、工作、自由研究などの分野の本の展示コーナーを設けて、学習資料の提供を行った。</p> <p>○小・中学校からの要望により、施設見学や調べ学習等への協力を行った。</p> <p>「酒田市子ども読書活動推進計画」については、実態把握のため、保育園および小・中学校の児童生徒とその保護者へのアンケート調査を実施し、関係部署の協力により原案を作成した。</p>										
事業の効果	<p>・児童・生徒の施設見学や調べ学習では、必要な資料を提供することができた。また、学校図書館とは異なり、一般社会人と同じ図書館を利用することで社会勉強の一つともなった。</p> <p>・夏休み期間中は、児童・生徒の利用が増加し、作文、工作、自由研究などの分野の本の貸し出しが増加し、関連した相談業務を行った。保護者と図書館を訪れる機会が増える時期でもあり、図書資料の提供が親子のふれあいに貢献できた。</p>										
点検結果・自己評価(課題・方向性)	<p>・普段から、児童・生徒の利用は多く見られるが、特に夏休み中の利用は倍増し、自由研究に関連した児童・生徒からのレファレンスが寄せられている。それらを検討して、次年度以降の対応に生かす。</p> <p>・「子ども読書活動推進計画」は、21年度に策定した原案をもとに、22年度内の完成を目指し、23年度から実施する。</p>										

基本的方向	Ⅳ 歴史にはぐくまれた芸術・文化を活かす		
基本施策	10. 歴史・文化遺産の保存と活用		
施策	文化財等の保存と活用		
担当部署	社会教育課		
事業の目的及び目標	<p>文化財の保存と活用を図るため、有形文化財の適正な管理及び無形文化財の保護・継承を担う人材や団体を育成・支援する。</p> <p>そのために、文化財施設の公開や「民俗芸能フェスタ」などの各種事業を実施し、伝承活動を支援するとともに、地域に所在する文化財について市民の理解を深めることに努める。</p>		
	項目	現状	5年後
	民俗芸能保存団体育成	31団体	33団体
			10年後
			36団体
H21年度 主な事業の概要及び実施状況	<p>○ さかた歴史街道事業【予算額 1,815千円】【決算額 1,739千円】</p> <p>市内各地域に残されている貴重な文化財等の再発見事業として「史跡めぐり 松山街道を訪ねて」を開催した。また、「酒田民俗芸能フェスタ」や「黒森歌舞伎酒田公演」を開催し民俗文化財の活用を図った。</p> <p>民俗芸能フェスタ H19 900名、H20 900名、H21 900名 黒森歌舞伎 H19 900名、H20 900名、H21 900名</p> <p>○ 文化財保存活動支援事業【予算額 1,025千円】【決算額 1,025千円】</p> <p>「酒田市民俗芸能保存会」活動を支援し、加盟団体に対する情報提供や長年の民俗芸能保存継承活動に対する功労者の顕彰を行うとともに、各芸能の公演日などをまとめたリーフレットを作成するなど加盟団体を広く市民に紹介した。</p> <p>H19 29団体、H20 31団体、H21 31団体</p> <p>○ 旧鍛屋管理運営事業【予算額 7,499千円】【決算額 7,408千円】</p> <p>国指定史跡「旧鍛屋」を広く市民に公開し、また、四季折々の企画展示事業を開催するなど市民の文化財への理解を深めるとともに観光資源としての活用を図った。</p> <p>入館者数 H19 24,118人、H20 21,416人、H21 24,739人</p> <p>○ 旧阿部家管理運営事業【予算額 3,419千円】【決算額 3,243千円】</p> <p>市指定文化財「旧阿部家」を広く市民に公開し、各種の企画展示事業を実施するなど市民の文化財への理解を深めるとともに観光資源としての活用を図った。</p> <p>入館者数 H19 3,509人、H20 4,028人、H21 3,310人</p>		
事業の効果	<p>文化財を適正に管理保存するとともに、多くの市民に文化財に親しんでもらい、理解を深めていただいた。「酒田民俗芸能フェスタ」は40回を迎え、民俗芸能の保存継承の活力となっている。一定の観客も見込まれ、文化財に対する関心は高まってきている。</p>		
点検結果・評価(課題・方向性)	<p>・民俗芸能などの文化財が地域の人々の誇りとなるよう、保存継承への意欲を育むとともに、文化財の保護・継承を行う人材や団体の育成・支援を行う。市民参加型のソフト事業などにも取り組み、文化財への理解をさらに深めていただくとともに、入館者増をめざす。</p> <p>・未加盟団体の加盟促進。</p>		

小中学生の朝食状況(全国学力・学習状況調査より)

<質問事項1> 朝食を毎日食べていますか

【小学生】

(単位:人、%)

年度	質問事項	回答数	回答内容					その他	無回答	
			食べている	どちらかといえど食べている	小計	あまり食べていない	まったく食べていない			
H19	朝食を毎日食べていますか	児童数	1,099	980	87	1,067	30	2	0	0
		割合	100	89.2	7.9	97.1	2.7	0.2	0.0	0.0
		県割合	100	88.8	8.2	97.0	2.7	0.3	0.0	0.0
		国割合	100	86.3	8.9	95.2	4.0	0.8	0.0	0.0
H20	朝食を毎日食べていますか	児童数	1,088	971	80	1,051	28	9	0	0
		割合	100	89.2	7.4	96.6	2.6	0.8	0.0	0.0
		県割合	100	89.1	7.7	96.8	2.8	0.4	0.0	0.0
		国割合	100	87.1	8.3	95.4	3.7	0.8	0.0	0.0
H21	朝食を毎日食べていますか	児童数	1,041	939	80	1,019	18	4	0	0
		割合	100	90.2	7.7	97.9	1.7	0.4	0.0	0.0
		県割合	100	90.1	7.3	97.4	2.2	0.4	0.0	0.0
		国割合	100	88.5	7.5	96.0	3.2	0.7	0.0	0.0

【中学生】

(単位:人、%)

年度	質問事項	回答数	回答内容					その他	無回答	
			食べている	どちらかといえど食べている	小計	あまり食べていない	まったく食べていない			
H19	朝食を毎日食べていますか	児童数	1,116	907	136	1,043	57	16	0	0
		割合	100	81.3	12.2	93.5	5.1	1.4	0.0	0.0
		県割合	100	85.1	9.9	95.0	4.0	1.1	0.0	0.0
		国割合	100	80.5	11.1	91.6	6.0	2.3	0.0	0.0
H20	朝食を毎日食べていますか	児童数	1,149	944	128	1,072	61	16	0	0
		割合	100	82.2	11.1	93.3	5.3	1.4	0.0	0.0
		県割合	100	85.6	9.5	95.1	3.7	1.1	0.0	0.0
		国割合	100	81.1	10.8	91.9	5.8	2.3	0.0	0.0
H21	朝食を毎日食べていますか	児童数	1,115	960	111	1,071	36	8	0	0
		割合	100	86.1	10.0	96.1	3.2	0.7	0.0	0.0
		県割合	100	86.3	9.1	95.4	3.8	0.9	0.0	0.0
		国割合	100	82.2	10.2	92.4	5.3	2.1	0.0	0.0

<質問事項2> 家の人と普段(月～金曜日)、朝食を一緒に食べていますか

【小学生】

(単位:人、%)

年度	質問事項	回答数	回答内容					その他	無回答	
			食べている	どちらかといえど食べている	小計	あまり食べていない	まったく食べていない			
H19	朝食を毎日食べていますか	児童数	1,099	515	201	716	221	162	0	0
		割合	100	46.9	18.3	65.2	20.1	14.7	0.0	0.0
		県割合	100	49.5	19.7	69.2	18.9	11.9	0.0	0.0
		国割合	100	41.7	19.0	60.7	21.6	17.7	0.0	0.0
H20	朝食を毎日食べていますか	児童数	1,088	548	191	739	195	154	0	0
		割合	100	50.4	17.6	68.0	17.9	14.2	0.0	0.0
		県割合	100	49.6	19.0	68.6	18.6	12.7	0.0	0.0
		国割合	100	42.1	18.6	60.7	21.2	18.0	0.0	0.0
H21	朝食を毎日食べていますか	児童数	1,041	524	191	715	196	130	0	0
		割合	100	50.3	18.3	68.6	18.8	12.5	0.0	0.0
		県割合	100	51.9	18.3	70.2	18.4	11.4	0.0	0.0
		国割合	100	44.0	18.2	62.2	20.5	17.2	0.0	0.0

【中学生】

(単位:人、%)

年度	質問事項	回答数	回答内容					その他	無回答	
			食べている	どちらかといえど食べている	小計	あまり食べていない	まったく食べていない			
H19	朝食を毎日食べていますか	児童数	1,115	356	216	572	250	293	0	1
		割合	100	31.9	19.4	51.3	22.4	26.3	0.0	0.1
		県割合	100	33.4	18.5	51.9	22.8	25.3	0.0	0.0
		国割合	100	24.3	16.3	40.6	24.0	35.3	0.0	0.1
H20	朝食を毎日食べていますか	児童数	1,149	368	224	592	234	323	0	0
		割合	100	32.0	19.5	51.5	20.4	28.1	0.0	0.0
		県割合	100	33.6	18.0	51.6	22.4	25.9	0.0	0.0
		国割合	100	24.3	16.3	40.6	23.5	35.8	0.0	0.1
H21	朝食を毎日食べていますか	児童数	1,115	424	211	635	251	229	0	0
		割合	100	38.0	18.9	56.9	22.5	20.5	0.0	0.0
		県割合	100	36.4	18.6	55.0	22.1	22.9	0.0	0.0
		国割合	100	25.8	16.5	42.3	23.7	33.9	0.0	0.1

(注)小計は、割合の数値を合算したもの

地域の教育力向上事業実績

コ ミ 振 名	主要事業内容	事業数	参加人数 (人)	決算額 (千円)
西荒瀬コミュニティ振興会	育てよう！わくわく夢の森(学習林である、クロマツ林の手入れと学習)干し柿づくり(児童が作製し、高齢者の一人ぐらしへ配布)郷土料理教室(日向川で捕獲した鮭を使った料理を学ぶ)	7	406	300
新堀コミュニティ振興会	最上川自然探検隊(最上川川下、八目鯉料理)世代間交流(風づくり、依頼 など)	5	308	246
広野コミュニティ振興会	三世代交流事業(料理講座、縄ない など)、伝統文化交流事業(茶道、出羽人形鑑賞交流)、歴史講座(地域の歴史を学ぶ)	7	510	265
浜中コミュニティ振興会	茶道教室、育児講演会、菊づくり教室、浜中・黒森交流会	7	737	300
黒森コミュニティ振興会	3世代くろもりんびっく(軽スポーツ、ウォーキング)、少年歌舞伎・太鼓練習会、年越し大作戦	7	404	300
十坂コミュニティ振興会	はればれクラブ(料理講習・作付け講習など)、親子ふれあい健康講座(食育講座)	2	562	153
東平田コミュニティ振興会	農作業体験、菊花栽培で高齢者との交流事業、郷土歴史体験(登り窯による陶芸づくり)	5	360	300
中平田コミュニティ振興会	一坪菜園(親子で作物栽培)、おぼけかぼちゃハロウィンコンテスト、子ども神楽	4	493	300
北平田コミュニティ振興会	北風っ子クラブ(地域の先生による調理実習、作品づくり講座)ひょうたん作り(地域の協力による小学生卒業記念品製作事業)	5	342	300
上田コミュニティ振興会	花いっぱい運動(植栽から除草、水かけ作業まで通年で展開)3世代交流(畑での野菜栽培～料理講座)上田太鼓教室	3	824	300
本楯コミュニティ振興会	ふるさと文化学習事業(地域の歴史・文化・環境などを学ぶ)もとたてグローバル・スタディ事業(稲作体験・花の栽培と舞茸育成)もとたて地域つながり事業(ボランティア講習会、通学合宿)	3	625	300
南遊佐コミュニティ振興会	ホテルのタベまなびの里教室(刺し子、英会話、フラダンス、野菜畑など)世代交流スポーツ(グランドゴルフ、ベタンク)、そば打ち体験	8	479	300
一條コミュニティ振興会	通学合宿、家庭教育学級、手作り探検隊(栽培から調理まで一連で実施)	4	751	300
観音寺コミュニティ振興会	地域自然教室、にこにこ体験隊	2	123	270
大沢コミュニティ振興会	世代間交流事業、太鼓練習事業	2	429	210
日向コミュニティ振興会	通学合宿、日向ぼっこクラブ環境探検隊(環境整備、地域探検、虫マップ作りなど)、家庭教育学級	3	328	300
南部コミュニティ振興会	地見っ子ふれあい協議会(自然体験、木工クラフト、スノーラタン)通学合宿、手作りおやつ、そば打ち(そばの栽培から、収穫、そば打ちまで)	7	659	300
山寺コミュニティ振興会	作物栽培と料理講座(米、豆、芋)(豆腐づくり)、伝統芸能伝承(狂言)、夏休み・冬休みチャレンジ講座(陶芸・早起き体操)	8	1,253	240
松嶺コミュニティ振興会	自然体験学習(ニジマス掴み取り)チャレンジ教室(早起き体操、茶道、親子お菓子づくり、書初め)	6	677	300
内郷コミュニティ振興会	グランドゴルフ、木工・陶芸、通学合宿、親子料理教室、新社会人ボランティアフェスティバル	6	208	300
田沢コミュニティ振興会	中学生サークル活動、地元体験事業(川遊び、登山)、料理教室(おせち料理)、刺し子教室	5	289	260
東陽コミュニティ振興会	農業体験(蕎麦の栽培～そば打ちまで)、旨味体験教室(魚のさばき方)、通学合宿、郷土料理教室	4	159	300
郡鏡・山谷コミュニティ振興会	通学合宿・水生生物学習会	3	108	100
砂越・砂越緑町コミュニティ振興会	通学合宿、地域行事と竹とんぼづくり、親子お菓子づくり教室、花金夕食会(地域の先生による料理講座)	4	261	255
計		117	11,295	6,499

生涯学習推進講座開催事業実績

区分	事業名	実施回数	人数
幼児	孫と一緒にリトミック	5	110
	わくわくちびっこ広場	4	475
	わらべのひな祭り展	1	670
	親子でヒップホップダンス	2	61
少年	さかたっ子・チャレンジ冒険団	3	41
	酒田マリーングジュニア合唱団	41	1,074
	児童いけばな体験講座	10	147
	わいわい出前講座	11	647
	子ども菓子づくり	2	39
	特別出前講座「わたしたちの先輩」	3	134
	地域人材交流講座	397	11,678
青年	マーシャルアーツ	9	130
	こころを伝えるマナー講座	6	78
	はじめての料理～定番のおかず	5	96
	フラワーセラピー講座	5	39
	マットサイエンス～ピラティス&ヨガ講座(前期・後期)	20	432
成人	アクリル絵画入門	10	56
	デジタルカメラ入門	4	65
	仕事帰りの集中エクササイズ	10	112
	旬の野菜で作る元気レシピ	10	111
	コアエクササイズ	10	322
	浜の伝道師に学ぶ魚料理教室	3	53
	地唄三絃を弾く教室	5	35
	着付け講座	4	56
	いきいき太極拳体操教室	5	52
	明るい生活づくりのヨーガ教室	5	82
	はじめての三味線～ソーラン節を弾いてみよう～	5	41
	手作りパン教室	5	56
	癒しのドリンクカクテル教室	2	46
	Let's草木染め	1	12
家庭教育	さんさん学級	6	166
	すくすく出前講座	27	1,930
	地域家庭教育講座	31	2,140
	家庭教育セミナー	5	59
指導者養成	少年団体リーダー研修会	2	67
	ホール音響・照明操作講習会	8	76
	16ミリ映写機操作講習会	1	6
催し	出羽遊心館春の市民茶会	1	305
	文化講演会 期日 平成22年3月11日 講師 養老 孟司氏 演題 『かけがいのないもの～楽しい人生の道しるべ～』	1	420
	生涯学習まつり2009 期間 平成21年10月23日～25日 参加団体71団体 会場 総合文化センター	1	16,280
	正月行事展	1	1,000
	風揚げ大会	1	200
	酒田マリーングジュニア合唱団定期演奏会	1	200
	百人一首かるた会	1	30
合計		690	39,829

年度	講座数	実施回数	延べ人数
20年度	46	299	29,862
19年度	45	364	32,458

東北公益文科大学市民講座開催事業実績

・市民大学講座

年間テーマ 21「これからの時代を眺む」		
昼の部テーマ 「高齢化」から学ぶこと		
区分	演 題	受講者数
1	「高齢化社会を楽しく生きるための食生活」	57
2	「生きる尊厳・死ぬ尊厳」	58
3	「健康と食生活」	53
4	「エイジングの社会学」	50
5	「社会人のための教養『社会保障』」	51
計		269

夜の部テーマ 「まちづくり」への多角的考察		
区分	演 題	受講者数
1	「地球資源からのメッセージ」	23
2	「今、福祉まちづくりに求められるもの」	26
3	「アートで“まち”を発見する」	20
4	「共創・協働のまちづくり」	22
5	「ごみのない地域をめざして」	17
計		108

20年度	講座数	受講者数
昼の部	5講座	133
夜の部	5講座	114
19年度	講座数	受講者数
昼の部	4講座	126
夜の部	4講座	90

・出前講座

区分	テーマ	受講者数
1	歴史遺産に見る「水辺の文化史」	15
2	「仕事も生活も生き生きと輝いて！」	13
3	福沢諭吉の「学問のすすめ」を読む	21
4	地産地消で健康づくり～ベニバナと健康～	62
5	生きる尊厳 死ぬ尊厳	58
6	共生の街づくりとコミュニティ	32
計		201

年度	回数	受講者数
20年度	8回	338
19年度	8回	304

生涯学習施設「里仁館」講座実績

区 分	講座名	回数	延受講者数	
里仁講座群	だだちやまめの科学	3	49	
	鳥海山系の名水・名瀑めぐり	3	131	
	最上川の文化的景観	3	123	
	庄内と西郷隆盛	3	96	
	バイオテクノロジーの体験	3	46	
	景色に地震を読む 2009年編	3	69	
	出羽三山山麓の自然と文化	3	125	
	考古学・埋もれた世界に触れる	3	83	
	天地人と北庄内	3	121	
教養講座群	湊町 酒田のまつり	3	70	
	おらほのことば 最上川ほとりの方言	3	49	
	庄内のいろいろな気象	3	79	
	眺海の森散策	3	45	
	合 唱	6	103	
	家庭でできるフランス料理	3	60	
	誰でも描ける絵手紙	3	30	
	元気だのう(前)	3	92	
	健康のための食生活	3	94	
	源氏物語を楽しむ(前)	3	73	
	庄内の民話と昔あそび	3	37	
	庄内米と私達の暮らし	3	43	
	出羽国府とその前後	3	104	
	地球を友に！エプソンのものづくり	3	70	
	布ぞうりと小物細工	3	51	
	元気だのう(後)	3	86	
	藤沢周平が見た上杉家・米沢藩	3	98	
	源氏物語を楽しむ(後)	1	25	
	これから始めるデジタルカメラ ～実習編～	3	48	
	親子講座群 (親と子のサタデー スクール)	開講式・はじめまして	1	104
チャレンジ！やさいづくり		1	100	
こども春まつり(公開講座)		1	83	
めざせ！つりめいじん		1	121	
いそであそぼう		1	87	
どろ・どろ・どろんこ		1	115	
こんちゅうだいすき		1	76	
こども夏まつり(公開講座)		1	168	
かわであそぼう		1	84	
りじんかん秋まつり(公開講座)		1	121	
からだであそぼう		1	69	
キッズニアリじんかん		1	53	
こどもげきじょう		1	46	
おやこでうどんやさん		1	69	
きのみでつろう		1	76	
りじんかん冬まつり(公開講座)		1	153	
ふしぎなせかいへようこそ		1	86	
閉講式・またね		1	77	
特別公開講座		財団法人 致道博物館長 酒井 忠久氏 「庄内の文化の広がり」	1	238
		山形県教育次長 渡部 泰山氏 「最上川—魅力ある風景を未来へ」	1	161
	読売新聞 特別編集委員 橋本 五郎氏 「どうなる？ 今後の日本！？」	1	389	
計		106	4,576	
自主運営講座		162	1,593	
施設開放による利用者			19,315	
合 計		268	25,484	
20年度		232	23,447	
19年度		244	22,632	